

せなか

島沢良子

「せなか」とは、胸と腹の後ろ、「背に腹はかえられぬ」という場所である。胸と腹を表とするなら背中とは即ち裏側になるわけ。裏とは表の反対側で、後ろ側ということになる。さで自分の「せなか」はどうやら自分で掻くことはできようが、自分の眼で確かめることは不可能の部分である。(たまには8ミリ映画などで自分の後姿を発見し意外感を抱かれた方もあると思う)そのくせ他人様のはよく観察することができる。特に生活のしみ込んだ部分で、粉飾することも言いわけすることもできないままさらけ出して、本人は他人様から遠慮なく眺められていることに気がつかない。「背を向ける」、「背をまるめて」、「肩を落して」、などは明るい言葉ではない。

しかし、子どもたちの「せなか」、これはいつもビチビチとして動きまわっている。私のながつき合ってきた多くの子どもたちには表も裏もない。もちろん、背中に顔はついて

いないのだが、その子の背中を見れば名前はわかる。それほどにこの裏側には個性があり表情がある。子どもたちが肩を組み合っている「せなか」、これは仲よしの相談である。肩を寄せ合って低くなっている時は、蟻ん子の活動を飽かず眺めている時、「せなか」越しに声を掛けたくなるが彼等の経験と感動を大切に、と思いつのまま私の方が、彼等の「せなか」を観察することになる。こんな生命力に溢れている「せなか」、このまま成長して勉強に、仕事に打ち込む後姿であってほしい。そう考える程、彼らの「せなか」から個性と表情とがはつきりと汲み取れるのである。ひらたく見える背中には実はよく動くのである。縦横に凹凸に、丸さの加減の変化は、表側の顔と同様、心の中の感情が出るのは不思議にさえ思われる。

運動会の遊戯について——子どもと父母のお楽しみの日です。四月入園当初はおぼつかなかった足跡りの幼児が、仲

間と共に走り歓声を上げる姿を目前に見て父母も保育者も感動の拍手を惜しまない。さて次は行進曲に合わせて子どもたちは一列に並んで出場してくる。列は次第に弧を描きいつのまにか子どもたちで円陣ができあがる。一同は中心に向かつて立ち、隣同士と手をつなぐ、中心には誰もいない。つまり観客一同へ「せなか」を向けた隊形になったわけ。曲に合わせて、簡単な動作・身振りをする。考えようによっては、自分と失礼な隊形。(運動会は見せるためのものではない、本質的に、などと言ってしまうえばそれだけの話だが)、私は運動会リズムのことを「せなかゆうぎ」と称している。簡単な動きをリズムによくのって踊る、とお母様方は、子どもも「せなか」おどりに感動して涙まで流して下さる。私は後向きを可愛らしく見せる動きを主眼として振り付けに苦心している。これが運動会リズムの秘訣である。次におゆうぎ会の計画が始まり「運動会のあれは好評だったからおゆうぎ会にやりましょう」と若い先生方からの発言に「一寸待ってよ、あれは後向き用に振りつけてあるから」と今度は急遽、舞台の正面に向かうようにと振りつけを変更するわけである。

可愛い子等が本当に私共に「せなか」をむけて行ってしまう時、それは三月にやってくる。私共に背を向けて元氣よく

小学校へとジャンプしてゆく姿、保育者の宿命とはいえ、毎年味わわなければならない。喜びの蔭にある淋しさだ。

さて大人の「せなか」子どもから成人に移る時の女の子、肩から首にかけて美しい線を出してゆく。母親に似てるのもこの頃だろう。さあその先がいけない。「せなか」で年齢を感じ始める。フォークダンスのお母様に「膝を伸ばして胸を張って下さい」と一言かけると、一同急にすっきりした姿勢になって、生活の疲れを忘れフォークダンスで若返った一時を過ごすことができる。胸を張ってとは肩甲骨を引き寄せるようにするのである。舞踊や芝居の中で後向きの演技が難かしい。女形が後向きで男性とばれることがあり、後向きで役の感情がにじみ出せたら名優である。舞踊では後向きのことを「うしろつき」と称し、その美しさを表出することは伝承されたいろいろの型で残っている。昔から「せなか」については研究されていたのだと思う。

そろそろ背の丸くなられた方へ一言、人と会話する時、肩を引いて下さい。立ちあがる際、胸腰をつとめて伸ばして下さい。いつまでも若々しく活動家であなければならぬ保育者でありたかったら、是非どうぞ。

(大井うさぎ幼稚園)